

試合中に選手に指示を与えるトヨタ自動車東日本の中川監督(中央)。「地域のシンボル」となることを目指す9月17日、岡山県総社市のきびじアリーナ(日本ハンドボールリーグ機構提供)



「『5年で日本一』が目標。スペースを見つけ、選手全員が共有して動けるハンドボールを目指す」。中

川善雄監督は前を見据える。トヨタ自動車東日本は日本リーグ男子で史上初となる東北初のハンドボールの日本リーグに今季からトヨタ自動車東日本が加わった。9チームによる2回総当たりのレギュラーシーズンは現在、1勝8敗の9位と苦戦中だが、震災からの復興に向かう東北地方のチームとして「地域のシンボル」になるべく、活動を活発化している。(宝田将志)

東北初のハンド日本リーグ参戦 トヨタ東日本

地域密着「元気づけたい」

■トヨタ自動車東日本
前身のセントラル自動車は1966年創部。79年から4シーズン、当時は2部制だった日本リーグの2部に参加した。今年7月にトヨタグループ3社の経営統合により現社名に変更された。チームの愛称は「REGAROSSO(レガロッシ)」。イタリア語で王を意味する「RE」、絆の「REGAME」、チームカラーの赤の「ROSSO」からの造語。選手は監督兼任の中川善雄を含め14人。

る東北地方を本拠地とするチームだ。2010年、前身のセントラル自動車が相模原市から宮城県大衡(おおひら)村に本社を移転するのを機に、日本リーグに加盟する方針が決まり、今季からの参入が実現した。ただ、それまで選手は週数回の練習で社会人チーム同士の大会に参加してきたおり、技術や体力は「同好会レベル」。加えて、昨年の東日本大震災の影響で会

そんなチームが理念として掲げるのが「地域のシンボルになること」。すでにリーグ戦の合間を縫って、中学生約50人を対象としたハンドボール教室を開催。子供向けの体験講習会は順次、行っていく計画で、来季はホームゲームの一部を岩手県で実施することも検討している。

仙台市の妻家が被災し、母親を亡くしたライトバックスの吉田翔太は「スポーツを見て盛り上がることも大事。震災からの復興を元気づけられるようになりたい」と活躍を誓っている。

それでも元日本代表主将の中川氏が監督を務め、地元協力で自治体の体育館を優先的に使えるなど練習環境も整っている。今後、代表経験のあるベテランの獲得も狙っており、飛躍する可能性を十分秘めている。

社業が変則になりたり残業が増えるなどして、全員そろってボールを使った練習ができるようになったのは今年9月のリーグ戦開幕後。苦戦は避けなかった。